

介護職員初任者研修カリキュラム

事業者名 株式会社メドレー

研修事業の名称 ジョブメドレースクール介護職員初任者研修（通信）

1 職務の理解（6 時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 多様なサービスの理解	3 時間	講義内容 - 介護保険サービス（居宅、施設、地域密着型サービスなど）の種類と特徴 - 居宅介護支援（ケアマネジメント）サービスの仕組み - 介護保険外サービス（在宅支援、民間サービス等）との違い 演習内容 - 身近なサービス例を取り上げ、利点と課題をグループで議論
② 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3 時間	講義内容 - 各介護現場（施設・在宅・通所など）の特色と提供されるサービス - 介護業務の流れ（利用者対応、記録、報連相、環境整備など） - チームアプローチ（多職種連携、役割分担、情報共有の仕組み） 演習内容 - 講師事例紹介によるグループ討議：その現場で発生しうる課題と対応案
合計	6	
2 介護における尊厳の保持・自立支援（9 時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 人権と尊厳を支える介護	4 時間	講義内容 - 人権・尊厳保持（自己決定・プライバシー保護・差別防止） - ICF（国際生活機能分類）の視点と QOL（生活の質）概念 - ノーマライゼーション、包括的支援の考え方 - 虐待防止・身体拘束禁止政策と倫理的対応 演習内容 - ケーススタディ：講師事例を基に自己決定を尊重する支援のあり方をグループで検討

②自立に向けた介護	5 時間	講義内容 - 自立支援の理念、過介護の弊害、残存機能の活用 - 介護予防の考え方とプログラム(運動、栄養、社会参加など) 演習内容 - 講師事例を基に、自立支援プランをグループで作成し発表
合計	9	

3 介護の基本（6 時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護職の役割、専門性と多職種との連携	1 時間	講義内容 - 介護職に求められる基本的役割と専門性 - 多職種連携の意義（医師、看護師、理学療法士、ケアマネジャー等との協働） - チームアプローチにおける介護職の立場と責任 演習内容 - 講師による事例提示（在宅サービスと施設サービスの連携事例）をもとに討議
②介護職の職業倫理	2 時間	講義内容 - 職業倫理の基本原則（尊厳の保持、自己決定、秘密保持） - 介護職員の行動規範と倫理的ジレンマ - 虐待防止、身体拘束禁止、権利擁護の視点 演習内容 - グループ討議：利用者の自己決定と安全確保が相反する事例について各グループで倫理的判断を話し合い、発表
③介護における安全の確保とリスクマネジメント	2 時間	講義内容 - 介護現場で起こりやすい事故（転倒、誤薬、誤嚥等）の要因と防止策 - リスクマネジメントの考え方 - 感染症対策 演習内容 - グループワーク：事故発生事例の分析と再発防止策をグループで検討
④介護職の安全	1 時間	講義内容 - 介護職自身の安全確保（腰痛予防、身体的負担軽減策） - メンタルヘルスとストレスマネジメント - 労働安全衛生の基本 演習内容 - グループワーク：自身のストレス対処法の共有
合計	6	

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（9 時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護保険制度	3 時間	講義内容 - 制度創設の背景・目的・動向 - 制度の構造（認定、給付、保険者、団体） - 財源・組織機能・役割分担 演習内容 - 講師事例を基に想定される認定～サービス利用までの流れをグループで分析し発表
②医療との連携とリハビリテーション	3 時間	講義内容 - 医行為と介護の境界、訪問看護・医療連携 - 看護・介護の役割分担と協働の重要性 - リハビリテーションの理念・基礎概念 演習内容 - グループ討議:医療処置が絡む場面での介護職の対応について
③障害福祉制度およびその他制度	3 時間	講義内容 - 障害福祉制度の理念、仕組み、対象サービス - 個人の権利保障制度（障害者差別禁止法等） 演習内容 - 具体的な障害福祉サービスの事例をグループ内で共有し発表
合計	9	

5 介護におけるコミュニケーション技術（6 時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護におけるコミュニケーション	3 時間	講義内容 - コミュニケーションの意義・役割・課題 - 手段と技法（傾聴、表情・アイコンタクト・言葉遣いなど） - 状況に応じた対応（認知症、高次機能障害、言語障害等） 演習内容 - グループ討議：難しい対話場面での言語・非言語対応について - ペア演習：聴き方訓練・傾聴ワーク（要約、質問など）
②介護におけるチームのコミュニケーション	3 時間	講義内容 - チーム内情報共有の原則、報告・連絡・相談 - ケアカンファレンス、事例会議、記録の意義 演習内容 - グループロールプレイ：情報交換場面を模擬し実践
合計	6	
6 老化の理解（6 時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①老化に伴うこころとからだの変化と日常	3 時間	講義内容 - 老化・老年期の概念、加齢による機能変化（感覚・運動・認知など） - 日常生活への影響：移動能力、栄養、排泄、生活リズム 演習内容 - グループ討議：加齢変化を考慮した支援方法について
②高齢者と健康	3 時間	講義内容 - 高齢者の特有の症状・疾患（呼吸器・循環器・糖尿病等） - 高齢者の健康管理としやすい予防策 演習内容 - グループ討議：複数疾患を持つ高齢者モデルの対応について
合計	6	

7 認知症の理解(6 時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 認知症を取り巻く状況	1 時間	講義内容 - 認知症ケアの背景・理念・社会的視点 演習内容 - ケース検討：認知症を持つ利用者の問題分析
②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	1 時間	講義内容 - 認知症の概念・原因疾患・診断基準 - 認知症治療・薬剤・健康維持 演習内容 - グループ討議：認知症のタイプによる対応の違いについて
③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2 時間	講義内容 - 認知症の心理・行動・生活障害 - 認知機能低下に対応する支援技術 演習内容 - グループロールプレイ：行動変化対応、導く言葉かけ
④家族への支援	2 時間	講義内容 - 家族援助の考え方、介護者負担の理解 - レスパイトケア、関係機関連携 演習内容 - グループ討議：講師が用意した家族ケースの検討：介護負担軽減手法を議論
合計	6	
8 障害の理解 (3 時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 障害の基礎的理解	1 時間	講義内容 - 障害の概念・ICF・障害者福祉の理念 演習内容 - グループ討議：講師事例を通じた障害理解
②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	0.5 時間	講義内容 - 各障害の特徴（身体・知的・精神・発達） 演習内容 - グループ討議：講師事例を基に障害をお持ちの方の支援方法を検討
③家族の心理、かかわり支援の理解	1.5 時間	講義内容 - 家族の心理的過程、支援方法 演習内容 - グループ討議：講師事例を基に家族支援の方法を討論・発表

合計	3	
----	---	--

9 こころとからだのしくみと生活支援技術（75 時間）

基本知識の学習	項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
	①介護の基本的な考え方	4 時間	講義内容 - 介護の目的と意義（自立支援・尊厳保持・QOL 向上） - 介護職に求められる基本姿勢と倫理綱領 - 利用者主体のケアの重要性 演習内容 - 具体的事例を基に「尊厳を守る対応」をグループで議論・共有
	②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3 時間	講義内容 - 心理的機能（学習・記憶・感情・意欲など）の基礎 - 高齢に伴う心理的变化と認知症の理解 - 利用者の心理的負担や不安への配慮 演習内容 - 講師事例を基に心理的背景を考慮した支援方法をグループで議論し発表
	③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	3 時間	講義内容 - 人体の主要な構造と機能（運動・循環・呼吸・消化など） - 老化に伴う身体機能の変化 - 健康維持と生活支援に必要な知識 演習内容 - グループ討議：身体動作と介護支援との関わりについてグループで議論し発表
生活支援技術の講義・演習	④生活と家事	6 時間	講義内容 - 家事援助の意義と留意点 - 調理・掃除・洗濯・買い物支援の方法 - 衛生管理と栄養バランス 演習内容 - 掃除や洗濯を想定したシーツ交換などの作業演習 - グループワーク：講師事例を基に生活支援計画の立案
	⑤快適な居住環境整備と介護	6 時間	講義内容 - 居住環境の整備と事故防止 - バリアフリー化と福祉用具の活用 - 災害時の安全確保 演習内容 - 福祉用具の紹介と体験 - グループワーク：自宅環境での危険箇所を洗い出し共有。改善策を検討
	⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6 時間	講義内容 - 整容の意義と QOL との関連 - 洗面・更衣・整髪・口腔ケアの基礎知識 - 自立支援としての整容援助の方法 演習内容 - 複数の衣服を用いた着脱衣の実技

	⑦移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6 時間	講義内容 - 移動・移乗の基本と安全確保 - 身体機能や ADL に応じた支援方法 - 福祉用具の種類と活用方法 演習内容 - 車椅子移乗や歩行介助の演習 - 段差やベッドを用いた車椅子移乗や肢体不自由者の杖歩行介助の実習 - 視覚障害者の歩行介助
	⑧食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6 時間	講義内容 - 食事の意義と栄養・水分補給 - 嚥下機能と食形態、誤嚥防止の基礎 - 口腔ケア用品の紹介 - 食事介助の留意点 演習内容 - 配膳・食事介助の実技（スプーン・ストロー等） - とろみ剤を利用した介護食体験
	⑨入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6 時間	講義内容 - 入浴・清潔保持の意義と健康への影響 - 入浴・部分浴・清拭の方法 - 皮膚の観察とスキンケア 演習内容 - 手浴・足浴の実技 - 部分浴や部分清拭の体験演習 - 全身浴や洗髪の実習演習
	⑩排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6 時間	講義内容 - 排泄のメカニズムと高齢による変化 - 失禁・便秘など排泄に関わる課題 - 環境整備と排泄介助の基本 演習内容 - ポータブルトイレの活用実技 - オムツ交換演習
	⑪睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6 時間	講義内容 - 睡眠の基礎知識と安眠のための環境整備 - 昼夜逆転や不眠への対応 - 体位変換と褥瘡予防 演習内容 - ベッドメイキングの実技 - 体位交換の演習 - 安眠を支える環境設定の演習

	⑫死にゆく人に関する ところとからだのしく みと終末期介護	6 時間	講義内容 - 終末期ケアの意義と考え方 - ターミナル期における利用者・家族支援 - グリーフケアと介護職の役割 演習内容 - 個人実習とグループ討議：事例を基にした終末期介護の対象方法を個人で検討した上でグループ討議・発表 - グループ討議：終末期ケアに関する倫理的課題について
生活 支援 技術 演習	⑬介護過程の基礎的理 解	6 時間	講義内容 - 介護過程（アセスメント・計画・実施・評価）の流れ - 個別援助計画の作成手順 - 記録の重要性と活用方法 演習内容 - 事例をもとに個別援助計画を作成 - グループで発表し相互評価 - 修正点の検討
	⑭総合生活支援技術演 習	5 時間	講義内容 - 学習した生活支援技術の統合と応用 - 総合演習の目的と評価基準 演習内容 - 複合事例に基づく一連の介助技術演習 - 技術評価と振り返り - グループでのフィードバック共有
実習		時間	
合計		75	
10 振り返り（4 時間）			
項目名		時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 振り返り		2 時 間	講義内容 - 研修学習の整理と総括 - 継続学習・研鑽の重要性 演習内容 - 自己振り返りワーク：特に印象に残った授業、自身の強み・課題・今後のアクションをまとめて共有
②就業への備えと研修修了後 における継続的な研修		2 時間	講義内容 - 就業時の心構え - 就業促進支援、研修後フォロー体制 - キャリアパスと継続学習の枠組み 演習内容 - グループワーク：自身のキャリア目標や継続して学びたいことを発表

合計	4	
全カリキュラム合計時間	130 時間	